

明石工業高等専門学校	開講年度	平成30年度(2018年度)	授業科目	機械工学実習ⅠA				
科目基礎情報								
科目番号	0020	科目区分	専門 / 必修					
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 1					
開設学科	機械工学科	対象学年	1					
開設期	前期	週時間数	2					
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。							
担当教員	森下 智博,大森 茂俊							
到達目標								
(1) 工学基礎 : 機械工学と科学との関わりを説明できる。 (2) 技術者倫理 : 機械工学と自然・社会との関わりを説明できる。 (3) 創成能力 : エンジニアとしての創造性の意味を説明できる。 (4) コミュニケーションスキル : 他者が理解できるように記述したり話したりでき、他者の意見を聞き、内容を理解できる。 (5) 基礎技能 : エンジニアのコミュニケーションツールの一つでもある3D-CADの特徴的概念を理解し、モデリングすることができる。 (6) 工学リテラシー : 実習作業の指示書を理解し、それに従い安全に測定器を操作し、データを取得できる。								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
評価項目1 工学基礎	機械工学と科学との関わりを説明でき、科学的知識を工学問題に応用できる。	機械工学と科学との関わりを説明できる。	機械工学と科学との関わりを説明できない。					
評価項目2 技術者倫理	機械工学と自然・社会との関わりを説明でき、自らの思考と行動に実践できる。	機械工学と自然・社会との関わりを説明できる。	機械工学と自然・社会との関わりを説明できない。					
評価項目3 創成能力	エンジニアとしての創造性の意味を説明でき、他者の創意工夫を活用して新たな価値を創成できる。	エンジニアとしての創造性の意味を説明できる。	エンジニアとしての創造性の意味を説明できず、自分自身の考えだけで解決しようとする。					
評価項目4 コミュニケーションスキル	他者が理解できるように記述したり話したりでき、他者の意見を聞き、適切な質問で、自他の理解を深めることができる。	他者が理解できるように記述したり話したりでき、他者の意見を聞き、内容を理解できる。	他者が理解できるように記述したり話したりできない。また、他者の意見を理解できない。					
評価項目5 基礎技能	3D-CADの特徴的概念を十分に理解し、自由自在にモデリングすることができる	3D-CADの特徴的概念を理解し機械部品などをモデリングすることができる	3D-CADの特徴的概念を十分に理解してモデリングをすることができない					
評価項目6 工学リテラシー	実習作業の指示書を理解し、それに従い安全かつ適切に測定器を操作し、信頼できるデータを取得できる。	実習作業の指示書を理解し、それに従い安全に測定器を操作し、データを取得できる。	実習作業の指示書を理解できず、それに従い適切にかつ安全に測定器を操作でいない。					
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (C)								
教育方法等								
概要	ものづくりの楽しさ・創意工夫する喜びを体験的に学習することを通して、機械エンジニアとしての基礎的素養を修得する。機械工学と科学との関わりや自然・社会との共生を理解する。							
授業の進め方・方法	講義で知識を修得し、実習で体験することによって理解を深める。							
注意点	その後の専門科目の学習に積極的に取り組めるようになるために、自発的な学習姿勢を身につけること。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課							
授業計画								
	週	授業内容	週ごとの到達目標					
前期	1stQ	1週	機械工学と自然科学(1) : 機械工学の学習をはじめよう (森下)					
		2週	機械工学と自然科学(2) : 簡単な物理実験と機械工学への応用 (森下)					
		3週	機械の構造と強度(1) : ペーパークレーンの製作1 (森下)					
		4週	機械の構造と強度(2) : 耐荷重コンテスト1 (森下)					
		5週	機械の構造と強度(3) : コンテスト1の講評 (森下)					
		6週	機械の構造と強度(4) : 力の加わり方や構造・形で強さはどうかわるか (森下)					
		7週	機械の構造と強度(5) : ペーパークレーンの製作2 (森下)					
		8週	中間試験実施せず					
後期	2ndQ	9週	機械の構造と強度(6) : 耐荷重コンテスト2 (森下)					
		10週	機械の構造と強度(7) : ペーパークレーン発表会 (森下)					
		11週	機械工学と自然・社会 : 機械工学の歴史と自然・社会との共生 (森下)					
		12週	3D-CADの基礎(1) : スケッチとフィーチャ(大森)					
		13週	3D-CADの基礎(2) : モデリング(大森)					
		14週	モデリング実践(1) : 部品課題製作(大森)					
		15週	モデリング実践(2) : 自由課題製作(大森)					

	16週	期末試験実施せず	
--	-----	----------	--

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	数学	数学	角を弧度法で表現することができる。	2		
			加法定理および加法定理から導出される公式等を使うことができる。	2		
		工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱いを身に付け、安全に実験できる。	1		
			実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	1		
			実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	1		
			実験データを適切なグラフや図、表など用いて表現できる。	1		
			実験の考察などに必要な文献、参考資料などを収集できる。	1		
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	1		
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	1		
			共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	1		
			レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	2		
専門的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	1		
			技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	1		
			社会における技術者の役割と責任を説明できる。	1		
			環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	1		
			環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	1		
			科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	2		
			科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	2		
			力は、大きさ、向き、作用する点によって表されることを理解し、適用できる。	2		
			一点に作用する力の合成と分解を図で表現でき、合力と分力を計算できる。	2		
			実験・実習の目標と心構えを理解し、実践できる。	2		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	災害防止と安全確保のためにすべきことを理解し、実践できる。	1	
				レポートの作成の仕方を理解し、実践できる。	1	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	1	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	1	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	1	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	1	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	1	
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	1	
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	1	
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	1	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	1	

### 評価割合

	取り組み・態度	作品	課題・報告書	合計
総合評価割合	20	40	40	100
基礎的能力	0	20	20	40
専門的能力	0	0	0	0

分野横断的能力	20	20	20	60
---------	----	----	----	----